

3 研究のまとめ

(1) 成果

- 実態調査を通して、様々な現状と問題点が見えてきました。中でも、家庭科教育を基軸とした食育を推進する上での問題点を明らかにすることができました。問題点は以下の3点です。
 - ・教員同士の連携や校種間の連携が図りにくい
 - ・児童生徒の食生活についての問題点が多く、特に「食品を選択する能力」の指導が難しい
 - ・校内において食育を推進していく上で栄養教諭等の困り感が大きい
- 食育の指導における系統性を確認するために、校種別に各教科・領域について関連項目の一覧表を作成することができました。教科指導の際に、食育との関連があるかどうかを一目で確認することができます。
- 「食を選ぶ力」の育成に焦点を絞って、食育と各教科・領域との関連を示した系統表を作成することができました。各教科等の指導内容や校種間の関連について示し、教科書に掲載されているキーワードを表示することで、「食を選ぶ力」の育成の視点において、各教科等とどのような関連性があるのかをより分かりやすくしています。
- 小・中・高等学校において、食育の授業実践例を提案することができました。食に関する指導の内容のうち、「食を選ぶ力」の育成を目指した学習指導案を作成し、実践しました。小学校では学級担任と栄養教諭との連携を図った授業、中学校では社会科担当教員と技術・家庭科家庭分野担当教員との連携を図った授業、高等学校では食育の視点を踏まえて行った専門教科家庭（フードデザイン）での授業です。学校で食育の授業を行う際に、活用していただけるものと考えます。

(2) 課題

「食を選ぶ力」の育成に焦点を絞って、食育と各教科・領域との関連を示した系統表を作成し、系統表の活用を含む家庭科教育を基軸とした教科間等の連携について、各校種において授業実践例の提案をすることができました。校種間の連携については、小・中学校の同一校区内においても難しい状況にあるのが現状です。まして、中学校と高等学校との連携については、極めて厳しい状況にあります。それぞれの校種をつなぐ1つのツールとして、本研究委員会で作成した系統表が活用できるのではないかと考えています。校種間連携における系統表の活用については、今後よりよい活用法について研究を重ねていきたいと考えています。

(3) 終わりに

食育の取組状況及び食育に対する意識についての実態調査では、県内全ての小・中・高等学校及び特別支援学校高等部の家庭科教育担当主任、栄養教諭、学校栄養職員に御協力いただきました。調査結果から、食育推進についての課題を明らかにすることができました。平成 29 年度は武雄中学校において検証授業を実施させていただきました。また、平成 30 年度は、鍋島小学校、武雄中学校、唐津南高等学校において、公開授業及び授業研究会を実施させていただきました。そのような場を提供していただいたことに感謝申し上げます。授業研究会では、参加していただいた先生方から、貴重な意見や感想をたくさんいただきました。多くの先生方の御協力に心から感謝申し上げます。研究スタッフ一同、この2年間、本研究が先生方の一助になればと研究を続けてまいりました。本研究の成果を学校の食育推進に向けた取組に活用していただければ幸いです。

最後に、「プロジェクト研究」研究委員の在籍校6校の皆様、並びにアドバイザーとして御指導・御助言いただきました佐賀大学大学院学校教育学研究科 岡 陽子 教授に感謝申し上げます。